

令和7年度

運営に関する計画

【2月 最終評価】

大阪市立開平小学校

大阪市立開平小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	進捗状況
<p>【安心・安全な教育の推進】</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を90%以上とする。【R7 88.9%】</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を85%以上とする。【R7 78.8%】</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「自分にはよいところがありますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。【R7 86.8%】</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○令和7年度策定した「開平教育の基本方針」に則り教育活動を推進する。</p>	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>「学校のきまり」について、職員全体で共通理解を図り、児童の規範意識を高めるようにする。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連絡会を月に1回、部会を適宜実施する。また、必要に応じて朝会時に連絡し児童理解に努める。 ・安全な生活を心がけることができるよう各学年に応じた取り組みを1回以上進める。（校舎内での安全歩行） <hr/> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童理解で共通を図り、児童・学年の実態を知ることで理解が深まり、指導・支援に生かすことができた。 ・生活指導ワーキング等で意見交流など相談しやすい環境が作られていた。 <p>「学年取り組みまとめ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎朝、月目標、週目標をクラス全体で確認し、目標を意識できるようになった。 ・運動場や体育館に行くときに様子を見守り、児童が気を付けようとする意識が高まった。 ・体育科、道徳科など学習の中で振り返りと指導を行い、児童が自分たちで声かけをし、意識を高め合うことができた。 ・環境づくり(ワークスペースに椅子・机)を行い、廊下で遊ぶ児童やけがやトラブルが減った。 <p>(改善点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廊下を歩くことに関しては継続した指導をしていく。 ・スマホの使い方、遅刻の多い児童については家庭との連携をする。 ・登下校時、特に電車での目の届かない場所での過ごし方について指導をしていく。 ・児童数が増え、報告内容の検討をしていく。 	B
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>「人との関わり」を扱った資料について重点をおいて指導し、友だちと仲よく助け合ったり、より良い学級や学校をつくったりしようとする態度を養う。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート「誰にでも優しくした」に対して、肯定的回答をする児童の割合90%以上を維持する。【R7 94%】 <hr/> <p>(成果)</p> <p>道徳や総合的な学習の時間に「人との関わり」に重点をおいた授業を行い、主題について自分事としてとらえることができるように指導してきた結果、普段の生活においても、友だちや</p>	A

<p>まわりのことを考えた行動を取ることができるようになってきた。</p> <p>(改善点)</p> <p>より温かい繋がりができるように、機会を捉えて指導を継続していく。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>「共に学び、共に育ち、共に生きる」インクルーシブ教育の推進のために、環境整備を進めるとともに、児童の相互理解につながる活動や取り組みを実践する。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の相互理解や共に学びあえる環境を整えるために、巡回相談や特別支援教育の研修を年間6回実施する。 ・各学年の発達段階に合わせて、特別支援教育の視点に立った障がいの理解につながる授業を実施する。 	
<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童理解の研修や特別支援教育の研修会で児童についての共通理解が図られている。 ・各学年の発達段階に合わせて、特別支援教育の視点に立った障がいの理解につながる授業を特別支援学級の担任と通常の学級担任と連携して行うことで、内容がより深まった。また、子どもたちが、お互いのことを知り、寄り添える児童が増えた。 ・巡回相談で助言いただいたことを日々の指導に活かすことができた。 ・UDの授業づくりが研究の視点に盛り込まれたことで、改めてUDの視点の大切さに気付くことができた。 <p>(改善点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度も配慮が必要な児童の理解や指導方法について研修を実施し、インクルーシブ教育を推進する。 ・各学年の発達段階に合わせて、特別支援教育の視点に立った障がいの理解につながる授業を特別支援学級の担任と通常の学級担任と連携し行い、児童が安心して学べる環境を整える。 	B
<p>取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>なかよし班活動のなかよし班清掃、ワクワフェスティバルや全校リエンテリング、ありがとう集会において、異学年集団の関わりを大切に活動になるように工夫する。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縦割り班で活動する中で、自分自身の役割を意識することができる機会を設定する。 ・児童アンケートにおける「なかよし班活動などで仲良くみんなと協力した」の項目について「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答える児童の割合を90%以上にする。 <p style="text-align: right;">【R7 96%】</p>	
<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ABCグループにすることで異学年との関係が深くなり、高学年が低学年に優しく教える姿が見られた。 ・集会や清掃など縦割り班活動が増えることで、自分の班のメンバーを覚えて日々の生活でも関わる姿が見られるようになった。 <p>(改善点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トラブルや児童の増加に伴い、なかよし班清掃のあり方を見直し、月に一回や廃止など、今後について検討していく。 ・班によっては六年生の負担が大きい班もあったため、班の編成の際に偏りがいないかを確認する。 	A

大阪市立開平小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	進捗状況
<p>【未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>○ 小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も0.01ポイント向上させる。【R6 1.12 → R7 1.11】</p> <p>○ 小学校学力経年調査における、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「あてはまる」と回答する児童の割合を65%以上にする。【R7 52.2%】</p> <p>○ 小学校学力経年調査における、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。【R7 76.4%】</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○令和7年度策定した「開平教育の基本方針」に則り教育活動を推進する。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>船場に学ぶ児童が主体的・対話的で深い学びができるように、各教科・領域、学年の横断的カリキュラムのもと、児童が協働的に学ぶ場を設定した授業を設定する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・大阪市学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を85%以上にする。【R7 82.8%】</p> <hr/> <p>(成果)</p> <p>各教科、領域、学年の横断的なカリキュラムをふまえて研究体制を整え、対話を視点とした授業実践を重ねてきた結果、ペア学習・グループ学習などで友だちと話し合う機会を多く持つことで、自分の考えを伝えたり、相手の意見を聞いたりすることができるようになってきた。</p> <p>(改善点)</p> <p>自分の考えを深めることができたと考えるポイントを明らかにし、だれもが話し合い活動に参加できるような工夫をしていく。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>専科指導を行うことにより授業の質を向上させ、児童の学習に対する興味や関心、意欲が高まるようにする。TTや個別指導を活用し、基礎的・基本的な学習の定着を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・専科における指導やTT体制での指導、個別指導を充実させ、算数と理科の小学校学力経年調査標準化得点を前年度程度維持する。【R7 算数 103.6→103.9 理科 102.3→104.1】</p> <hr/> <p>(成果)</p> <p>・専科の指導により、各教科内容が充実した授業となっている。また、担任の授業準備等の時間を確保したり、複数で児童の指導にあたったりすることができた。</p> <p>・TTや個別指導では、子どもたちの力に応じて、必要な学びにつなげることができた。子どもたちの理解が増えることにより、やる気や学力の定着にもつながっている。</p> <p>(改善点)</p> <p>・TT体制や習熟度別の学習は、人員等の関係で学年によっては難しかったので、体制を充実させていく。</p>	A

<p>取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>開校以来全学年で行っている週1回の英語活動と、大阪府が推進する英語短時間学習を計画的に実施し、英語で積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度を育成する。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週2回のドリムと年間時数に沿った英語・外国語活動を計画的に実施し、学校アンケートにおいて「進んで英語を話すことができた」「どちらかといえばできた」と答える児童の割合85%以上を維持する。【R7 92%】 ・小学校学力経年調査において「外国語（英語）の勉強は好き」「どちらかといえば好き」と答える児童の割合を85%以上にする。【R7 87.8%】 	
<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週2回のドリムの実施によって、英語に触れ合う機会が確保できており、児童も楽しんで英語の単語や歌を口にする場面が増えた。 ・また、定期的なC-net講師との交流により児童が意欲的に英語を理解し、話そうとする児童が増えた。 <p>(改善点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語短時間学習は目的を持って、計画的に実施していく。 ・外国語の授業は、発達段階に合わせた活動内容を意識し、児童全員が授業に参加できるものであるか見直しを図る。 	A
<p>取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>校内研修、各教科・領域の指導法、特別支援教育、本校のこれまでの取り組みなどについて、年間を見通した研修計画を立案・推進し、授業改善のための具体的な取り組みを進め、教師力の向上を図る。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業を行う全教員が研究を深めるため、一人1授業を行う。 ・「教科・領域の指導法」「特別支援教育」「ICT」を柱とした教員の研修会を実施する。 	B
<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修や一人1授業を通して教材への理解を深められた。また、研究の視点（話し合い活動・UD）を意識して相互に指導の向上を図ることができた。 ・「教科・領域の指導法」「特別支援教育」「ICT」研修を、計画的に実施することができた。 <p>(改善点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人1授業を参観するための体制を整える必要がある。授業の時期も重ならないように4月当初に全教員が計画を立てるなどの改善を図る。 	B
<p>取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>運動好きの児童を育てるために、休み時間の運動遊びの充実を図る。また、第2運動場の計画的な運用や体力向上を目指した体育学習及び体育的行事の工夫を行う。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートにおいて「運動する（体を動かす）ことが好き」と答える児童の割合85%以上を維持する。【R7 88%】 	
<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休み時間や体育の時間、工夫をしながら積極的に体を動かして遊んだり取り組んだりしている。（遊具や遊び道具が増えてより一層外へ出る児童も増えた。） ・限られた環境と時間の中で各場所を活用しつつ体を動かす機会を作ることができた。 <p>(改善点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことが楽しいと思えるような活動を増やすために研修などを実施していく。 ・みんなで参加する機会を増やす。（持久走週間など） ・休み時間の児童監護体制の見直しや、遊び方の指導をしていく。 	B

<p>取組内容⑥【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>すこやか週間を毎月設定し、「げんきアップチェックカード」を活用したり、分析したりすることで、全児童が健康的な生活習慣を身に付けることができるようにする。</p>	
<p>指標</p> <p>・「げんきアップチェックカード」の全項目について、昨年度の水準を維持できるようにする。</p>	
<p>(成果)</p> <p>すこやか週間が定期的に行われ、児童がげんきアップチェックカードを記録し、保護者にも知らせることで、基本的な生活習慣を見直すよい機会となっている。</p> <p>(改善点)</p> <p>自分の課題が何かを確認し、次回に活かせるような工夫をしていく。</p>	B

大阪市立開平小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	進捗状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業日において、児童生徒の8割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。 【R7 0%】 ○ 小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。 【R7 79.6%】 ○ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を60%以上にする。 【R7 61.76%】 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○令和7年度策定した「開平教育の基本方針」に則り教育活動を推進する。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	
<p>取組内容① 【基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーションの推進）</p> <p>市が進める学校教育 ICT 活用事業に沿った実践を計画的に進める。 各学年の実態に応じたプログラミング学習の実践を進める。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標</p> <p>・「1人1台タブレットパソコンを使うことで、学習を深めることができた」という児童アンケートに対して肯定的回答90%以上を維持する。 【R7 96%】</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>(成果)</p> <p>前年度の目標値より10%引き上げたが、無事達成することができた。教員が授業において、児童の発達段階に応じた話し合い活動や課題、掲示に「Sky Menu」や「Navima」などのあらゆるアプリを積極的に取り入れた。その結果、児童が、意欲的に取り組み、学習を深めることができた。</p> <p>(改善点)</p> <p>活用率においては、大幅に向上し、7割を連続して達成する日が続いているが、目標値まではまだまだである。引き続き「心の天気」の声掛けを行う。 また、活用する機会が増えたので、再度、ルールの徹底や、メディアリテラシーの啓発、効果的な使い方について、検討していく。 さらに、研修会や勉強会の回数を増やすだけでなく、研修内容を募集したり、ICT支援員の支援を利用したりして、教員一人一人のICT活用指導力が向上できるようにする。</p>	A
<p>取組内容② 【基本的な方向8 生涯学習の支援】</p> <p>開援隊の図書班や学校図書館司書と連携し、読書好きな子どもたちを育てるための実践を計画的に進める。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活を振り返る児童用アンケートの中の「進んで読書ができた」という項目において、肯定的回答を85%以上にする。 【R7 89%】 ・学校図書館教育全体計画および、学校図書館運営計画に沿って、委員会活動を主とした読書推進活動を学期に1回以上取り組む。 	B

<p>(成果)</p> <p>学校図書館司書や開援隊図書班との連携を図り、読書好きな子どもたちを育てるための実践を行ってきた。図書館司書とは、毎週水曜日に図書館内の配架状況や、各学年の学習内容・単元計画を共有することで、調べ学習などで図書資料を積極的に活用できる学年が増えた。</p> <p>また、図書委員会主催の読書イベントを学期に1度実施したり、配架の見直しやテーマ別コーナーの設置を行ったり、大阪市立図書館の団体貸出制度を活用しながら蔵書を補充したりすることで、多様なジャンルや新刊書に触れられる機会を確保することができた。</p> <p>(改善点)</p> <p>次年度以降も、学びを支える学校図書館の環境整備を目標に、学校図書館司書との連携を基盤としながら、計画的かつ継続的な改善に取り組んでいく。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>教職員の働き方改革を推進するため、ゆとりの日を週1回設定するとともに、ゆとりの日、それ以外の日の退勤時刻を掲示し、教員の勤務時間の上限に関する基準1（1か月の時間外勤務が45時間を超えないようにする）を満たす教職員の割合を前年度以上にする。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の平均時間外労働時間が校種別平均時間を下回るようにする。 <p style="text-align: center;">【R7 本校 23 時間 45 分 校種別平均 22 時間 10 分】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全衛生委員会を定期的に行い、産業医からのアドバイスをもとに働き方改革を意識する教職員を増やす。 	B
<p>(成果)</p> <p>ゆとりの日を週1回設定するとともに、セット時刻の掲示により退勤時刻を意識し、優先順位をつけて計画的に仕事を進めることができた。専科の授業が充実したことや学年間の連携や分担が図られたことで、効率よく仕事ができる。それぞれが自身の働き方を意識できたが、基準1を満たす教員は、前年度より約10%減少した。</p> <p>(改善点)</p> <p>校務分掌を見直し、特定の教員に仕事の負担が偏らないよう役割分担をし、全員で取り組める環境をつくる。</p>	